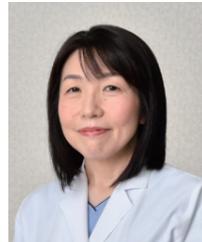




リハビリテーション科部長就任のごあいさつ

リハビリテーション科部長
北恵 詩穂里



平素よりひとかたならぬご厚情を賜りありがとうございます。本年4月より松江赤十字病院リハビリテーション科部長に着任いたしました、北恵詩穂里と申します。書面に恐縮ですが、ご挨拶に代えまして、簡単な自己紹介ならびに今後の抱負について述べさせていただきます。

もともとは脳神経内科医として急性期脳卒中診療に携わっておりましたが、その過程でリハビリテーション(以下、リハ)診療に興味を持ち、卒後13年目より改めてリハ科専門医の研修を受けました。兵庫県立リハビリテーションセンターと大阪(府立)急性期総合医療センターのリハ科で研鑽を積む機会に恵まれ、臨床経験豊かな指導医の先生方のお蔭をもちまして、専門医ならびに指導医の資格を取得することができました。

当院に赴任して約4か月が経過いたしました。いまだに近畿圏の大都市とは異なる医療事情に戸惑うことも多く、なかでも島根・鳥取両県における地域連携につきましては、先達の先生方にご教示いただきながら研鑽に励んでいる次第です。

現在、当科には3名の常勤医と1名の非常勤医が在籍して診療を行っているほか、理学療法士32名、作業

療法士7名、言語聴覚士7名が所属して各療法を施行しております。主には入院のリハ診療を行っているほか、当院を退院後の患者様への外来リハも行っております。リハ診療の重要性が浸透しつつあるお蔭で、2012年と比べますと約2倍のリハ処方件数に対応しております(2021年度6860人;患者数ベース)。一方で、職員数はほぼ同数であることから、提供可能なリハ診療の質と量が懸案事項となっております。また、高度先進医療を担うべき基幹病院でありながら、リハ診療の内容や設備に関しては前時代的であり、ICUにおける超急性期リハと五十肩の外来リハを並列に同じ熱量で行っているなど、解決すべき課題が山積しております。

高齢化社会に向けて、リハ診療の必要性は増大することはあっても減少することはないと言われております。嚥下障害やロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアなど、近年の高齢者医療のキーワードの多くがリハ診療に関わるものです。限られた人員と医療資源のなかでこれらに向き合っていくには、地域の先生方や、地域で支援して下さる介護保険を中心とした支援事業所とのご協力が不可欠であると考えております。

当院で行う「急性期のリハビリテーション」を円滑かつ安全に推進していくために、今後は「外来リハ症例の逆紹介」や「地域での支援に委ねる」形のご協力をお願いする機会が増えていくのではないかと予想しております。リハ診療におきましても、地域の先生方とのネットワークなくしては成立しないのが急性期病院の医療だと考えております。引き続きまして、どうぞ今後のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

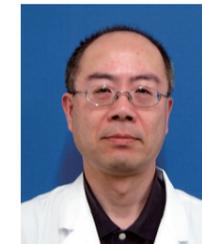
れんけい だより



地域医療連携室長就任のごあいさつ

地域医療連携室長
(院長補佐/検査部長)

内田 靖



2022年4月から3月末日で退職された漆谷前副院長の後を受けて地域医療連携の担当となりました内田です。これまで、地域の先生方、当院の先輩方が築き育み続けられた「連携の重さ」を改めて感じ身の引き締まる思いです。

思えば、21年前に松江圏域の医療機関に赴任した時は右も左もわからない状態でした。幸い、消化器内科診療に従事していたことから、研究会などを通じ少しずつ地域の先輩先生方の名前を覚えていきました。その後、2005年当院に赴任した前後から同世代の先生方が開業や継承され、徐々に顔の見える連携をさせていただけるようになり、肝疾患が専門であったことから肝炎や肝がんの連携では本当にお世話になりました。地元卒業の自分としては中高同窓の先生方の存在は大変心強かったです。

一方、近年はコロナの影響も強く現地開催での研究会は激減し、新しく開院された先生方とはお名前だけでお顔もわからない状態です。情報交換の在り方も、対面ではなくWebやSNSを用いた連携や情報提供が汎用、活用されている状態となりました。YouTubeでの情報発信が、視聴者にとって時間に縛られることなく有用であることは理解しつつも、相手の顔を見ることもできず反

応が分からないことに個人として消化不良も感じています。

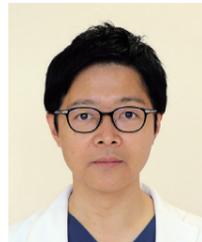
さらに社会情勢も刻々と変化し、医療を取り巻く環境もこれまで経験したことの無い速さで変化しています。特に地域医療構想や医師の働き方改革などは、一病院で検討、解決できるものではなく地域病院間の強い連携を前提に「ONE TEAM」となりスピード感を持って進めて行くことが大切です。

地域からの要望、先生方からのお言葉を拝聴し、これまでの在り方だけでなく、新たなニーズにも対応できる連携室にしていかなければならないと考えています。幸いにして、当院には若い力や優秀なスタッフが存在します。彼らの発想や能力を伸ばせる室長でありたいと思います。至らないこともあると思いますが、引き続き松江赤十字病院の地域連携室をよろしく願いいたします。



腎臓内科部長就任のごあいさつ

腎臓内科部長
花田 健



平素より大変お世話になっております。漆谷義徳先生の後任として本年4月から腎臓内科部長、および透析センター長を拝命した花田健と申します。私は2006年に島根大学医学部を卒業し、2008年に島根大学腎臓内科に入局しました。その後、医局関連病院（島根大学附属病院、山陰労災病院、聖マリアンナ医科大学）の勤務を経て2014年4月から現在まで松江赤十字病院に勤務しております。腎臓学会や透析医学会に所属しそれぞれ専門医・指導医を取得しており、当院の教育責任者でもあります。現在当科は入院対応ができる松江市内唯一の腎臓内科となっております。

主な取り扱い疾患は、検尿異常（尿潜血、尿蛋白）、腎機能低下（急性、慢性）、腎形態異常（片腎、萎縮腎、多発性嚢胞腎）、慢性腎臓病関連合併症（浮腫、高血圧、貧血、電解質異常）、腎代替療法（透析、腎移植）などになります。腎臓病患者は食事の欧米化や高齢化に伴っ

て増加し、現在8人に1人が慢性腎臓病と言われております。島根県においても例外ではなく、島根県総人口は減少傾向にもかかわらず透析人口は増加傾向が続いております。様々な腎臓病診療を通じて末期腎不全への進行を抑制することが当科の第一目標ではありますが、慢性腎臓病患者の有病率の高さから腎臓専門医師のみで対応することは現実的ではなく、病診一体となって取り組んでいくほかには方法はありません。現在、私のほか亀井史佳先生、大庭雅史先生の計3名のみの腎臓内科となっておりますが、他の医療機関から患者様を紹介しやすいように初診外来は平日毎日行うこととしております。腎臓内科医3人とも40代以下と年齢の若い診療科となりました。未熟な点もあるかと思いますがフットワークの軽さを売りに病診連携に力をいれてく所存ですので今後とも当科をよろしくお願ひ申し上げます。

また、これまでは膠原病・腎臓内科としてリウマチ・膠原病の診療も行ってまいりましたが、常勤する膠原病専門医師が不在となることとなり、新たに腎臓内科として出発することになりました。リウマチ・膠原病診療は隔週月曜日、毎週火・金曜日に膠原病外来を専門医師によって行っております。リウマチ・膠原病患者で入院対応が必要な場合には近隣大学病院との連携にて対応していくこととなっております。

泌尿器科部長就任のごあいさつ

泌尿器科部長
大野 博文

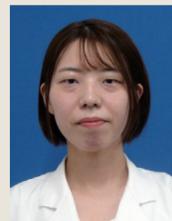


平素より大変お世話になっております。本年4月から小海力先生の後任として泌尿器科部長を拝命致しました大野博文と申します。平成7年鳥取大学を卒業し、平成14年に松江赤十字病院に赴任、これまで泌尿器科医師、同科副部長、そして医療技術部長として勤務して参りましたが、小海先生のご退職により、その職務を引き継ぐことになりました。また、これまで通り医療技術部長も兼任しております。

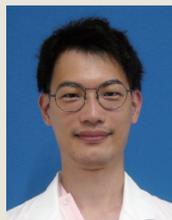
医療技術部は国家資格を有した医療技術者を一元的に組織化した部署です。放射線技師、臨床検査技師、理学療養士など病院により構成されるメンバーが異なりますが、当院では臨床工学技士、管理栄養士が所属しています。臨床工学技士は昨今ますます複雑化する医療機器の管理業務、血液浄化、人工心肺、循環器内科でのカテーテル業務など幅広い分野で活躍しています。また管理栄養士は糖尿病、腎不全などの栄養サポートを院内のみならず、広く一般の方々に届くよう活動の場を広げています。臨床工学技士、管理栄養士ともに病院、地域にとって貴重な人材であり、限られた範囲ではありますが、彼らと共に時間を共有できることに喜びを感じています。泌尿器科では私の他、弓岡徹也先生、小山優里先生の3名の常勤医師で診療を行っています。現在、泌尿器科の手術件数は年間500例以上ありますが、数例の特殊な手術を除いてはすべて腹腔鏡および経尿道的手術を中心とした低侵襲手術を行っています。また、新規入院患者数は月平均70名以上おられ、大学病院を除けば山陰では最も多い症例数になっています。3人体制でこれらの業務を行っていくのは大変ですが、“松江圏域の泌尿器科医療を守っていく”という強い使命感を持って診療ができています。これまで以上に、医療技術部、泌尿器科ともに地域のお患者様、先生方のご期待に添えるよう尽力して参りたいと考えています。今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

＼ よろしくお願ひします。 /

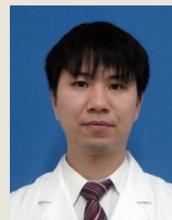
**新任医師
紹介**



第二小児科医師
ささき まゆ
佐々木 眞優 【令和4年7月1日付】
7月から松江赤十字病院小児科に赴任いたしました。まだまだ勉強中の身ではありますが、日々成長できるように一生懸命頑張ります。よろしくお願ひいたします。



血液内科医師
しらいし かんま
白石 貫馬 【令和4年8月1日付】
初めまして。大阪より赴任して参りました白石と申します。血液内科医として皆さんの診療に携わらせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。



研修医
みyaiし まさのり
宮石 昌典 【令和4年7月1日
～令和4年10月31日付】
研修医2年目の宮石昌典と申します。1年目で学んだことを生かし、日々の診療を頑張りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

配置換
【令和4年5月1日付】
救急部長
た なべ しょう た
田 邊 翔 太

退職者
●令和4年6月1日付
病院付部長 佐藤 真也
(益田赤十字病院へ)
●令和4年6月30日付
第二小児科医師 佐藤 美愛
研修医 花田 日向子

お世話になりました